

新潟市都市計画基本方針 — 都市計画マスタープラン —

市の都市計画の基本的な方針として、平成20年7月に策定しました。

●めざす都市のすがた

田園に包まれた多核連携型都市
—新潟らしいコンパクトなまちづくり—

「田園・自然」に囲まれたまち（市街地）が、まちなかを中心としたまとまりのある（コンパクトな）まちを形成し区（生活圏）の自立性を高めることと、それぞれの区の連携を高めることにより、様々な個性と魅力をもつ連合体としての新潟市を目指します。

●都市全体の構造

都市全体の構造を、以下の3つの要素から考えます。

- 市街地形態の維持と田園・自然の保全（面の構造）
- 都市及び地域の拠点の育成（点の構造）
- 地域の拠点間の連携（線の構造）

図 都市構造概念図



(都市計画課)

新潟らしい景観形成

都市の魅力の一つとして、潤いややすらぎのある快適な都市環境が求められています。美しく個性的で魅力あるまちづくりを目指し、新潟らしい景観を「まもり、そだて、つくり、つたえる」ため、景観法に基づく「新潟市景観計画」と「新潟市景観条例」や、屋外広告物法に基づく「新潟市屋外広告物条例」を定め、総合的・計画的に景観形成を推進しています。また、市内各地域においては、それぞれの歴史と文化を活かした「修景」や「きめ細かなルール作り」を行うことによって賑わいと活力あるまちづくりを進めます。



〔本市を代表する景観 萬代橋と信濃川〕



〔歴史的まちなみが残る古町花街〕

鳥屋野潟南部開発計画

一水と緑に恵まれた自然・優れたアクセス性
鳥屋野潟南部は都市のアメニティゾーン

「鳥屋野潟南部開発計画」は、新潟市内にあって豊かな自然を残す鳥屋野潟に隣接するとともに、高速交通網の結節点に位置する鳥屋野潟南部地区約270haにおいて、環日本海地域の拠点にふさわしい環境の優れたアメニティ空間の創出、新しい都市機能の導入を行うもので、民間活力の導入を図りながら、県・市・亀田郷土地改良区の三者で、整備を推進しています。

新潟市民病院



平成19年11月に、新潟市民病院が開院し、その周辺において、土地区画整理事業により基盤整備が行われ、病院関連施設の立地が進んでいます。(ウェルネスゾーン)

いくとぴあ食花

平成26年6月に、食育・花育センターやこども創造センターが立地する「いくとぴあ食花」がグランドオープンしました。(国際文化・教育ゾーン)

HARD OFF ECOスタジアム新潟



平成21年6月に「HARD OFF ECOスタジアム新潟」が完成し、プロ野球公式戦も開催されています。(総合スポーツゾーン)

新潟アサヒアレックスアイスアリーナ

平成26年2月に、フィギュアスケートやカーリングなど氷上スポーツが年中無休で楽しめる「新潟アサヒアレックスアイスアリーナ」がオープンしました。(ウェルネスゾーン)

長潟南土地区画整理事業施行地区

鳥屋野潟南部地区 A=270ha

鳥屋野潟南部地区全景

●まちなかのリニューアル

一地域の魅力を活かした、暮らしやすくにぎわいあふれるまちなか再生を支援

各地域の市街地中心部を“まちなか”と位置付け、地域の魅力を活かした、暮らしやすくにぎわいあふれるまちなかの再生を目指し、市民が主体的に行うまちづくり活動に対し支援を行っています。また、政令市の顔である中心市街地の活性化に向け、土地の高度利用や都心居住の促進、広場や緑地等の公開空地の整備といった良好な市街地形成を図り、まちなか再生につながる民間の建築活動に対し支援を行っています。

【寄居町地区 まちなか再生建築物等整備事業】



既成中心市街地である古町周辺地区に建築された築40年余りを経過した老朽マンションを建替え、優良住宅による都心居住の促進と公開空地による周辺環境の改善を図りました。

【新潟駅南口第二地区 第一種市街地再開発事業】



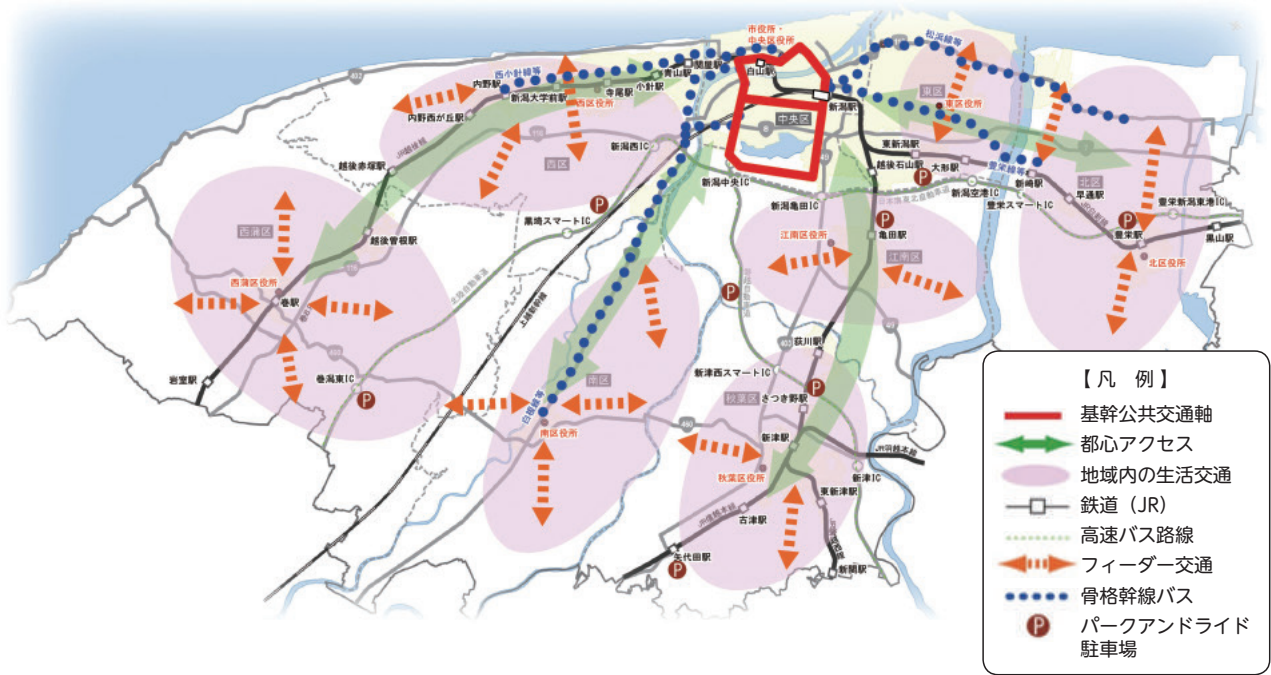
新潟市の陸の玄関口である新潟駅の南口において、広域交通拠点周辺地区としての立地条件を活かし、都心居住を目的とした住宅等を中心とする施設計画により事業を進めました。

(まちづくり推進課)

快適に移動できる交通利便都市を目指して

●新潟市がめざす公共交通ネットワーク

田園に包まれた多核連携型都市を目指し、新潟らしいコンパクトなまちづくりを推進するため、交通体系の充実により地域間連携を強化するとともに、地域のニーズや人の移動特性等を考慮した公共交通の利用環境整備に取り組んでいます。



公共交通施策展開の三つの視点

都心アクセスの強化

各地域から都心部（都心及び都心周辺部）方向へ向かう既存のバス路線や鉄道について、運行便数増加や待合空間の整備等の利便性向上を図ることで、より便利で快適な交通環境を目指します。

生活交通の確保維持・強化

各地域では主要バス停や拠点駅に接続する公共交通を地域の需要に応じて運行することにより、日常生活の足を確保し、地域内の移動を便利にします。

都心部での移動円滑化

公設民営方式により、新潟駅～青山間に次世代型バスシステム（BRT）を導入します。また、乗り換え地点（交通結節点）や鉄道への接続の充実を図り、多方面へ行きやすくします。

具体的な
手法として

新バスシステム

～持続可能な公共交通体系の構築～

次世代型バスシステム(BRT)の導入+全市的なバス路線の再編

●BRT導入計画

持続可能なまちづくりの実現に向け、まちなかにふさわしい質の高いサービスを提供するBRTを段階的に整備することにより、全市的なバス路線の再編と併せた公共交通体系の構築を目指します。



[公設民営方式]

連節バスや走行環境などを新潟市が整備し、交通事業者がこれを活用し、運行します。これにより本市がバス交通にこれまで以上にに関わり、より良いサービスを継続的に提供できます。

●新バスシステムでの主な取り組み

都心軸でのBRTの導入

平成27年9月の開業段階では、連節バス4台と一般バス約20台で運行します。

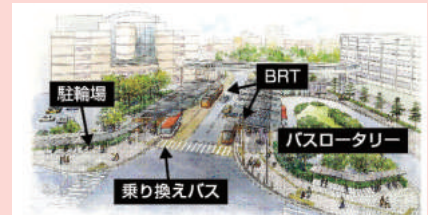


[連節バス]

乗り換え地点(交通結節点)の整備

移動距離を出来る限り短くするなど乗り換え時の負担を軽減させます。

市役所前
※イメージ



都心アクセス・郊外線を強化

都心部方向へ向かう既存のバス路線や鉄道の利便性向上を図ります。



[路線バス]

区バス・住民バスなど地域内交通を充実

公共施設や拠点駅にアクセスする公共交通を地域の需要に応じて運行することで移動を便利にします。



[区バス]



[住民バス]

(都市交通政策課・新交通推進課)

日本海交流都市の拠点づくり

●新潟港利用活性化事業

国際拠点港湾である新潟港の拠点性を物流・人流両面で一層高めるため、外貿コンテナ貨物取扱量の増加を促進するほか、日本海横断航路の支援、クルーズ客船の寄港促進・受入体制の充実を図ります。

<主な事業>

- ・クルーズ客船の誘致推進
- ・輸出コンテナ貨物の荷主支援とポートセールス
- ・日本海横断航路の支援

(港湾課)



●新潟空港利用活性化事業

国際交流の促進などの事業を実施し、利用客の増加や航空需要の拡大と活性化を図り、新潟空港の拠点性を高めます。

<主な事業>

- ・新規参入、増便路線への支援
- ・既存路線の拡充促進
- ・新規航空路開設に向けたチャーター便支援やエアポートセールス

(空港課)

●万代島にぎわい空間の創造事業

「みなとまち新潟」を象徴する、活力と魅力があふれる「港空間」を創出し、交流人口の拡大を図ります。

<これまでの動き>

- ・平成22年度、旧魚市場跡地に市民市場「ピアBandai」がオープン

<主な事業>

- ・旧水揚場跡地（ピアBandai向かい）の利用に向けた整備方針の策定
- ・開港150周年に向けた市民主導のにぎわいづくりの促進

(港湾課)



●新潟駅周辺整備事業概要

新潟駅周辺整備事業は、鉄道を挟んだ南北市街地の一体的な整備を図り、日本海拠点都市にふさわしい都市機能の強化に向けて、鉄道在来線の高架化や幹線道路、駅前広場等の都市基盤整備をはじめ、駅周辺市街地の総合的な整備を図るものです。



※破線…凍結路線
※図中の色分けは、表の供用目標年度を示します。

新潟駅周辺整備事業の整備目標

供用目標	鉄道関係	広場・道路関係
H25年度頃～	白山駅舎・南北自由通路	(都) 駅南線 (平成27年度) 万代広場 (部分整備)・白山駅周辺
H30年度頃～	高架化完成 (越後線) 同一ホーム供用 越後線複線化	(都) 新潟島屋野線 (都) 出来島上木戸線 高架側道・区画道路 (越後線側)
H33年度頃～	高架駅開業 信越本線・白新線高架化	高架側道・区画道路 (信越本線・白新線側) 万代広場、高架下交通広場 (都) 新潟駅西線 (都) 新潟駅東線 (鉄道交差部) (都) 明石紫竹山線



(都) 駅南線 (けやき通り)
H26年5月供用開始

●連続立体交差事業

JR信越本線等の新潟駅付近約2.5kmにおいて鉄道を高架化することにより、2箇所踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業です。平成27年度は、栗ノ木バイパス上での鉄道橋の新設をはじめ、高架化区間全体で高架橋工事を進めます。



新潟駅部での高架橋工事



越後線の高架橋工事

●白山駅周辺整備事業

連続立体交差事業に伴う白山駅のホームと線路の改造にあわせて、地下自由通路、地下駅舎、駅前広場などの整備を行いました。平成25年9月1日から自由通路と新駅舎の供用を開始し、白山駅の南側からも駅利用が可能になりました。27年6月には駅前広場が完成し、交通結節点としての機能強化が図られています。



駅前広場 H27年6月完成



自由通路 南口～北口



自由通路南口

(新潟駅周辺整備事務所)